

平成 30 年度 淡路地区海岸ゾーン民間活用検討委員会
第 1 回議事録（要旨）

日時 : 平成 30 年 7 月 10 日（月） 10 時～12 時

場所 : 神戸地方合同庁舎 8 階 第 9 会議室

出席者 : (委員)

公認会計士・税理士	岡村 修
帝塚山大学 経済経営学部 部長	熊谷 礼子
兵庫県立人と自然の博物館 館長	中瀬 勲

(国)

国土交通省 近畿地方整備局	
国営明石海峡公園事務所 所長	北村 智顕
調査設計課長	有村 良一
建設専門官	野間 亮太
調査設計係長	猿渡 真純

(アドバイザー)

日本工営株式会社	片山、林、高橋、徳川
PwC アドバイザリー合同会社	佐々木、中島

1. 開会

- ・ 野間専門官より開会を宣言

2. 挨拶

- ・ 北村事務所長より挨拶

3. 委員紹介

- ・ 各委員より自己紹介

4. 委員会規約について

- ・ 有村調査設計課長より説明

5. 委員長選出

- ・ 立候補者なし
- ・ 事務局から中瀬委員を推薦したところ、他の委員からの異議はなく決定
- ・ 中瀬委員長よりご挨拶

6. 議事

〔主な質疑・ご指摘事項等〕

(1) 事業概要等について

- ・ 特になし

(2) マーケットサウンディング調査の実施結果について

- ・ 特になし

(3) 公募設置等指針（素案）について

- ・ 海岸ゾーンには私も行ったことがあるが、絶景というわけではなく、また、海に直接接触できないとすると、観光としては難しいと感じる。トラックの時間待ちをするような場所にならないようにしなければならない。(岡村委員)
- ・ 事業者に Park-PFI の制度の趣旨が伝わらないのではないか。ユニークな公園施設をつくるなどして集客するような取り組みを追求できる可能性があることを民間に伝えることが必要。(中瀬委員長)
- ・ 駐車場を有料とした場合、事業成立は難しいと思われる。(中瀬委員長)
- ・ 公園で子どもを遊ばせる方や公園を散策される方の利用が想定されるが、客足は天気や季節の影響を受けやすく、よほど施設自体に特別な魅力がないと収益を上げることは難しいのではないか。(熊谷委員)
 - 今回、Park-PFIにより民間活力を導入しようとする目的は、まさに特色あるアイデアを民間に出してもらうことを期待しているものである。(事務所)
- ・ デザインコードが示されているが、これでは特色が出しにくいのではないか。(熊谷委員)
- ・ むしろデザインコードにこだわらず、迫力のある提案を期待したい。(中瀬委員)
 - デザインコードの書きぶりについて検討する。(事務所)
- ・ 飲食店はトレンドがあるので 20 年間同じコンセプトを維持することは難しい。途中でコンセプトや外観を変更することはできるか。(熊谷委員)
 - 必要に応じて有識者の意見をお聞きした上で、公募設置等指針に照らして変更の妥当性を評価する。(事務所)
- ・ 今回の事業において、どの施設で収益が上がるのかが見えづらい。(岡村委員)
 - 事業における収益・費用の流れが見やすい説明資料を検討する。(事務所)
- ・ 駐車場の運営管理を認定計画提出者が行う場合でも、大規模イベント時などの際に国が管理するのであればそのことは指針に明記した方がよい。(岡村委員)
- ・ 南あわじの民間主導の成功事例を調べたほうが良い。県が整備して指定管理を行っているが、民間からフィードバックがある。(中瀬委員長)

(4) その他

[主な質疑・ご指摘事項等]

- ・ 民間に分かりやすいようにかみ砕いた形で、お金の流れを説明した方がよい。駐車場を有料とする場合の上限額なども示す必要がある。(岡村委員)
- ・ 特定公園施設として園路広場等と記載しているが、例えばフットサル・ドックランなども作ってよいのであれば、そのことを明示した方がよい。公募対象公園施設も同様に、飲食・売店

と書くとそれしかできないイメージになるので、幅広い提案が得られるよう表現を工夫した方が良い。 (岡村委員)

- ・ 来園者の利便性を高める施設というだけでなく、民間が自らもっと集客ができるものを自由に提案してよいというニュアンスを伝えるべきである。 (熊谷委員)

4. 閉会

以上